

メモリICの市況と技術トレンドの最新状況を把握されたい方に

メモリICは様々な要因により市況が変動してきました。アプリケーションの変化による需要の増減や、メモリメーカ各社の方針による供給の調整など、複数の要因が複雑に絡みあっています。そのため、最新の市場動向を継続的に把握する必要があります。また、アプリケーションの高度化に伴い、メモリ技術の進化は加速しています。これらは、メーカの販売戦略に大きな影響を与え、メモリ市況変動の要因となっています。

本ウェビナでは、メモリICを購入する立場であるモジュールメーカの目線で、最新の市場動向と技術トレンドについて、メーカの成功事例を交えてご紹介しました。

メモリ市場全体の状況

近年、メモリ市場をAI関連事業が大きくけん引しています。主にデータセンタ向けの需要が急増しており、それに伴いメモリベンダ各社は次世代メモリであるDDR5やHBMへシフトしています。大手ベンダがDDR4からDDR5への移行を加速した結果、現在DDR4の供給量は減少し、供給逼迫と価格高騰が発生しています。

NANDとDRAMの技術トレンド

組み込み向けSSDやSDカードに使用されるNAND Flashは、3DのTLCが主流です。特に、3D NAND技術の1つであるBiCS Flashにおいては、ADATAを含む多くのメーカがBiCS5を主力製品として採用しています。今後は、より高性能・高密度なBiCS8への移行が見込まれています。さらにはBiCS8をベースに低消費電力と高性能を両立させたBiCS10の発表もあり、技術革新が加速しています。

また、次世代メモリであるDDR5やLPDDR5では、従来のUDIMMやSO-DIMMに加え、多様なフォームファクタが登場しました。モジュールとしての容量は最大で256GBを実現し、サーバやデータセンタ向けR-DIMMでは128GBの高容量化が進んでいます。

ADATA TRUSTAのご紹介

TRUSTAはADATAが創設したエンタープライズ向け製品のブランドです。主な用途はAIサーバ、エンタプライズサーバ並びにデータセンタ向けの製品となります。

SSDは最大で7.68TBの容量を搭載、エンタープライズ向け標準規格「EDSFF」に準拠しています。また、15.36TBの製品の検討も進めています。

DIMMはDDR5を中心に、最大容量128GBまでのR-DIMMのフォームファクタを採用した製品をラインナップしています。

■ 本日の登壇者 ■



エイデータテクノロジー・ジャパン株式会社
大越 恒平 氏
IA 日本事業部 営業部
プロジェクトマネージャー



エイデータテクノロジー・ジャパン株式会社
志気 剛 氏
IA 日本事業部 技術部 ディレクター

TRUSTA Enterprise SSD

EDSFFは、「Enterprise and Datacenter Storage Form Factor」の略で、データセンタやエンタープライズストレージシステム向けに特別に設計されたSSDのための標準規格となっております。



Form Factor: E3.5
W: 33.75mm
L: 118.75mm
T: 9.5/15/25mm



Form Factor: E3.5
W: 76mm
L: 112.75mm
T: 7.5mm

ADATA TRUSTAのご紹介
出所：上記資料より一部抜粋

[他記事、ウェビナ情報はこちら](#)



エンジニアによりそうマガジンサイト